

## 「JENESYS2024」日本青年研究者訪中国の記録

### 1. プログラム概要

【目的】本事業は、2024年9月8日（日）～14日（土）の日程で、中国社会科学院の招待により、日本の大学・研究機関等に所属する青年研究者を中国に派遣し、中国の政府・党関係者や中国社会科学院を始めとする青年研究者との意見交換等を通じて互いの理解を深めるとともに、「地域活性化」をテーマに視察・参観し、中国についての多面的な理解を深めることを目的として実施しました。

【参加者】日本の大学・研究機関等に所属する青年研究者 14名

【訪問地】北京市、河南省鄭州市

#### 【日程】

##### ■ プレプログラム

2024年8月30日（金） オンライン事前オリエンテーション

##### ■ 派遣プログラム

2024年9月8日（日）～9月14日（土）6泊7日

9月8日（日） 北京首都国際空港より中国入国

9月9日（月） 【訪問・交流】中華人民共和国外交部

【視察】中国歴史研究院考古博物館

【訪問・交流】在中国日本国大使館 ブリーフ

【夕食交流会】中国社会科学院日本研究所

9月10日（火）【訪問・交流】中国共産党中央対外連絡部

【交流】日中青年研究者座談会・交流夕食会

（中国社会科学院青年研究者代表団フォローアップ）

9月11日（水）河北省鄭州市へ移動

【視察】金水区杜嶺街道商圈党群服務中心、惠済区孫庄村、鄭州師範学院

【夕食交流会】鄭州市人民政府外事弁公室

9月12日（木）【視察】河南省温州商会、鄭州市児童福祉院、鄭州市政務服務中心、

ハイテク区笨爸爸工房

【訪問・交流】嵩山少林寺、少林延魯武術学校

9月13日（金）【視察】河南省博物館

北京市へ移動

【報告会】訪中成果・帰国後の活動計画発表

9月14日（土）北京首都国際空港より中国出国

## 2. 記録写真



9月9日【訪問・交流】  
中華人民共和国外交部



9月10日【訪問・交流】  
中国共産党中央対外連絡部



9月10日【訪問・交流】  
日中青年研究者座談会



9月11日【視察】  
金水区杜嶺街道商圈党群服務中心



9月12日【訪問・交流】  
嵩山少林寺



9月12日【訪問・交流】  
少林延魯武術学校

### 3. 参加者の感想（抜粋）

◆対面して会うことに意義があり、そこから見える人柄や人間味に互いに触れ合うことを、どのようなレベルの交流でも継続していくことは大切だと感じた。社会科学院の研究者の皆さんとの議論においては、時に米中関係や領土問題での認識の隔たりを感じたが、育児、働き方など、より身近なテーマでは共感し合うことができ、やはり人間同士だと感じた。

◆中国を対象とした研究を行ってきたものの、コロナ禍以降、学術的活動のために日本から中国に行く際にはビザ申請が必須となり、そのための招聘状を出してくれるカウンターパート探しに苦労している。今回訪中団に参加したのも、今後の中国側カウンターパートまたはその窓口になってくれる研究者を探したいとの考えからであった。幸いにも訪中日程において若手研究者と人的往来の問題について話し合う機会があり、相手方もビザに関して同様の状況にあり、日本側のカウンターパート探しに苦労している事情を知った。お互いの所属先同士が人的往来の便宜を図る旨の協定を締結できればよいのではないかとの話になり、それぞれの所属先へ提案することを約束した。

◆日中が共通課題に取り組む可能性という点で言えば、社会科学院や鄭州市の政府関係者が再三主張していた「日本人の中国観」も両国の関係性の発展にとって障害になるのではないかと思います。彼らが繰り返し述べていたのは「日本人はマスメディアの偏向報道ばかりを見て中国に悪い印象を持っている」でした。今回訪中ツアーに参加したうちの半分以上は中国を専門とする学者であり、そういったメディアに対するリテラシーは十分有していると思われます。また、彼らの言うマスメディアはよくよく聞くと昼の時間帯に流れるワイドショーの事を指しているようでした。現在、テレビを見る日本人は減っており、そういったマスメディアの報道にもある意味真面目に向き合っていない若者が多くなっていると思われます。中国側はそういった現状を理解していないのではないかと思います次第です。

◆一つは中国社会の多様性である。中国の人々は立場や地位によって考え方が大きく異なっているように見えた。また今回訪れた二都市では様々な人に会ったが、彼らは（良い意味で）他都市の人々に競争心を抱いていた。中国政府は現在、「一つの中国」「五族共和」を唱えているが、それは本質的な中国の状態とは異なるのではないかと思います。もう一つは、中国民衆を支配するシステムの合理性である。今回訪れたスマートシティーでは、民間社会の相互互助を目的としたオンラインシステムに基づくコミュニケーションシステムを確認した。これらは不確定な要素を排除し確実に人を助けるという点で合理的ではあるが、中国社会のコミュニティーが民衆ではなく共産党によって主導されることにつながってしまうようにも見える。いずれにせよ、今回得られた二つの視点は自分の研究にもつながるだろう。

◆日本とは全く違う政治や社会システムの中にある治世や生活に衝撃を受けました。これは悪い意味ばかりでなく、現在日本で課題だと言われている、社会問題に対する「解決力」や「突破力」の人的・資源的リソースの割り方をすごいとも感じました。日中両側の発表でも繰り返し言われたように、政治レベルでなく個人同士の付き合いが大切なのだと改めて感じる事ができました。公衆衛生

や医療政策という専門領域分野では、日本の常識とはかなり乖離した状況があり、例えば救急医療や、健康保険といった項目一つをとっても全く異なる社会常識で運営されていることが分かり衝撃でした。異なる課題、共通する課題のいずれも他国と見比べることの重要性や協力の可能性を実感として感じられ、貴重な経験となりました。

◆今回の訪中で得た収穫は多岐にわたり、中国の多面性を直接体験できたことが最大の成果です。まず、技術革新の速さと普及率の高さに驚かされました。電子決済システムが日常生活に深く浸透しており、スマートフォン一つでほぼすべての支払いが可能な環境は、日本以上に進んでいると感じました。また、行政サービスのデジタル化も顕著で、効率的な公共サービスの提供方法を学ぶことができました。社会課題への取り組みも興味深く、特にジェンダー問題に対する中国独自のアプローチは新鮮でした。職場での男女平等や、育児支援制度など、日本と比較しながら考察する機会を得られました。研究者として、中国の大学や研究機関を訪問できたことも重要な収穫です。最先端の研究設備や、研究者たちの熱意に触れ、今後の共同研究の可能性を探ることができました。

4. 参加者の対外発信、報道記事（抜粋）、等

 <p>2024.9 中国社会科学院と日中友好会館による、JENESYS 日中青年研究者団派遣事業に参加しました。 多才かつ多領域にまたがる豪華研究者陣と一週間させたことは素晴らしい経験でした(夜も毎日飲み語り...) 何かと極端で一面的に語られがちな日中関係ですが、ことアカデミアは政治と切り離して誠実に対人関係を作ることが大事と改めて認識しました。優秀な方が多すぎる。 外交部や中央対外連絡部など普通は入れないところに入れたのも一生の思い出👉そして中国料理はやはり素晴らしい! 4秒前</p>	<p>遅ればせながら、今回の訪中にて大変お世話になりました皆様(中華人民共和国外交部、中国歴史研究院考古博物館、在中国日本国大使館、中国社会科学院日本研究所、中国共産党中央対外連絡部、金水区杜嶺街道、惠済区孫庄村、鄭州師範学院、河南省温州商会、鄭州市児童福祉院、鄭州市政務服務中心(続く))</p> <p>23:11 · 2024/09/24 · 73回表示</p> <p>1件のいいね</p> <p>訪中しなければ考えられなかった貴重な体験をさせていただきました(中国社会科学院研究者代表団と共に行った「日中青年研究者座談会」での学術交流など)。</p> <p>特に、日中友好会館・中国社会科学院の皆様には何から何までご手配いただき格別のお力添えを賜りましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。</p>
<p>2024年9月25日(団員のSNS)</p> <p>極端で一面的に語られがちな日中関係ですが、学術交流は政治と切り離して人間関係を作ることが大事と改めて感じました。</p>	<p>2024年9月24日(団員のSNS)</p> <p>訪中しなければ考えられなかった貴重な体験ができました。</p>

<p>中日の若手研究者が北京で座談会「等身大の相互理解」の重要性を確認</p> <p>2024-09-11 21:03:05 CRI</p>  <p>会場の様子</p> <p>中日双方の若手研究者24人が参加した座談会が北京市内で10日午後に行われました。主催は公益財団・日中友好会館で、中国社会科学院日本研究所が協力しました。座談会では双方の参加者のいずれもが、等身大の相互理解の重要性を指摘しました。</p>	<p>Global Talk   在郑州，日本青年学者团有哪些新思考？</p> <p>大河網 2024-09-13 20:30:39</p>  <p>来到郑州 日本青年学者团 有哪些新思考？</p> <p>Upon arriving in Zhengzhou, what new perspectives does the Japanese group of young scholars bring?</p> <p>大河網は、当来到一个新的城市，你会需要什么？从人情、基础设施、现代化程度即文化差异？这一系列的问题出发到郑州，他们又会有哪些新思考？</p> <p>为进一步加强中日相互理解，增进中日关系，9月11日至13日，由中国社会科学院主办的日本青年学者团来到郑州，16名日本青年学者通过参加座谈、实地考察等方式，亲身体验和交流，进一步了解了中国的历史文化和社会发展，促进中日两国的友好交流与合作。</p>
<p>2024年9月11日</p> <p>CRI（中国国際放送局）日本語</p> <p>中日の若手研究者が北京で座談会「等身大の相互理解」の重要性を確認</p>	<p>2024年9月13日（大河網）</p> <p>「鄭州にて、日本青年研究者団はどのような新しい考えを抱くのか？」</p> <p>日本青年研究者訪中団が鄭州を訪問し、視察・交流などを通して中国の歴史文化や現代化を体感し、日中友好の交流・協力を促進したことが紹介されました。</p>

5. 報告会での訪中成果とアクション・プラン発表

	
<p>【訪中中の学び】</p> <p>中国は生活の利便性が高く、電子決済等生活のあらゆるサービスが発達していると感じました。中国でのフェミニズムについて肌感覚で感じる事ができたのは収穫でした。両国青年研究者の考えを共有する大切さを実感しました。</p> <p>【アクション・プラン】</p> <p>訪中の経験を SNS で共有し、中国のジェンダー研究についての調査を行う。</p>	<p>【訪中中の学び】</p> <p>鄭州のスマートシティの試みは、人と人との繋がりを党が手配することだと理解しました。中国ではこれまでこうした繋がりは、地域や義理人情によって維持されてきたところ、これを党が実行するという点に、中国ならではの合理性を感じ興味深く感じました。</p> <p>【アクション・プラン】</p> <p>論文を作成したい。中国語の勉強を始め、HSKを取得したい。</p>

実施団体名：（公財）日中友好会館